

平成29年8月

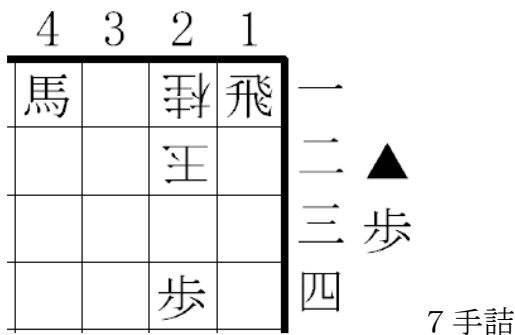
詰将棋作家の皆様へ

「解けてうれしい詰将棋」は子供達に「将棋の普及」とともに「詰将棋の普及」も目的として発行を続けています。もう一つの大きな使命は詰将棋作家の皆様に「詰将棋の発表の場」を提供することです。

つきましては下記のような創作作品を懸賞出題用としてぜひともお寄せ頂きたくよろしくお願い申し上げます。解きたくなる形の詰将棋こそが「将棋」と「詰将棋」をつなぐ架け橋です。詰将棋ファンを増やすためにもベテラン作家の実力を見せつけて下さい。

なお、初級コーナー用の1手詰～5手詰も大歓迎です。

- ①7手～11手「やさしすぎるかな？」程度でOKです。
- ②右隅 5×5以内。(なるべく)
- ③非限定は極力避けて下さい。(成不成、合駒、打ち場所など)
- ④使用駒数の少ない作品。(盤面10枚以内、持駒3枚以内)
- ⑤実戦型にこだわるわけではありませんが、実戦に現れそうな作品。
- ⑥大駒捨ての妙手もしくは大駒が盤面から消える出題。



520-0025 大津市皇子が丘 2-4-10-505

「将棋を孫に伝える会」 三宅 英治

090-6678-3012 メールkaitou6678@yahoo.co.jp

創作必至コンクールのお知らせ

平成30年発行予定の増刊号『創作必至コンクール(Ⅱ)』にて懸賞出題します。

募集要領

問題………創作必至。未発表作品に限る。(複数題ご投稿を期待します)

6×6右隅。盤面使用駒10枚以内。1手必至もしくは3手必至。

初級向出題を歓迎します。玉方持駒限定出題も可。双玉(逃れ必至)なども大歓迎。

掲載誌………増刊号『創作必至コンクール(Ⅱ)』

表彰………解答者の票を参考にして最優秀作品を表彰します。

募集期間………平成29年11月末まで。

必至は「詰将棋派」と「指将棋派」を結ぶ、重要な役割を担っています。必至の面白さを詰将棋ファン、将棋ファン拡大のために広く伝えて行きたいと考えています。